HITACHI

FLORA 220W NS3

3

ハードウェアを使いこなす

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

このマニュアルの使い方

このマニュアルでは、周辺機器の接続方法、日常のお手入れ、技術情報を説明しています。必要に応じてお読みください。

■「1 章　バッテリーを使う」
バッテリーの使い方について説明します。

■「2 章　周辺機器を接続する」
パソコンに周辺機器を接続する方法を説明します。

■「3 章　日常のお手入れ」
パソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。

■「4 章　技術情報」
パソコンの仕様、有償部品やオプション情報について説明します

マニュアルの表記について

重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。

マニュアル内で使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。また、特に記述のない限り、画面はすべて Windows XP のものです。

もくじ

1 章

バッテリーを使う

この章では、バッテリーでパソコンを使う方法やバッテリーの上手な使い方について説明します。

バッテリーを取り付ける

ここでは、バッテリーパックの取り付け方について説明します。バッテリーパックを取り付けると、コンセントのない所にもパソコンを持ち運んで使えます。バッテリーパックにはパソコンに内蔵するものと、外付けにするもの（オプション）があります。

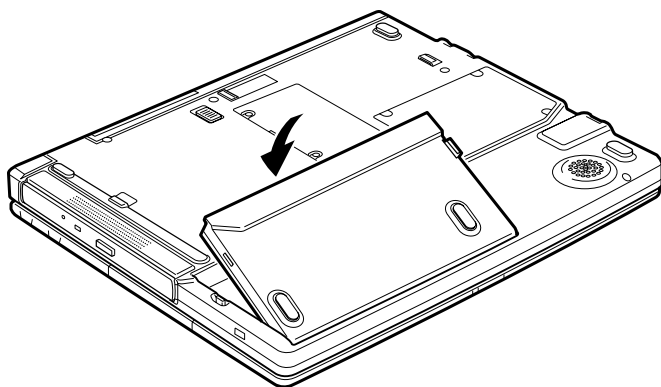
パソコンに内蔵するバッテリーパック

取り付け手順

1 パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。

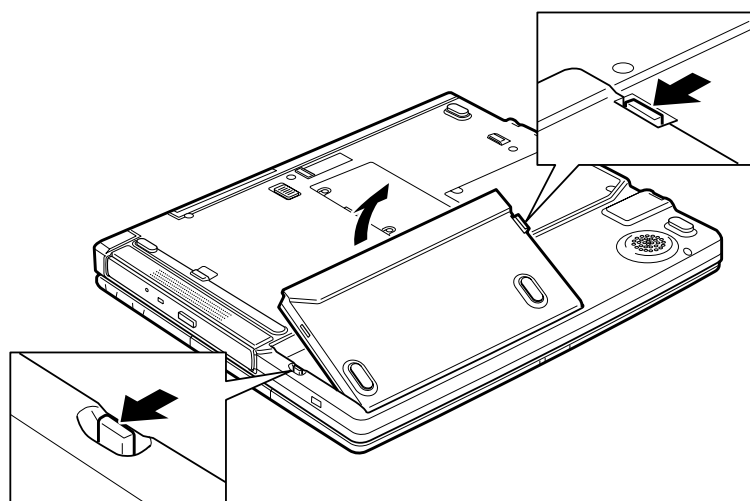
2 バッテリー 1 を「カチッ」と音がするまで差し込む。

重要

◎ お買い求め直後のバッテリーパックは充電されていません。充電してからお使いください。また、長期間バッテリーを使わなかったときも定期的に 40% ぐらいまで充電してください。

取り外し手順

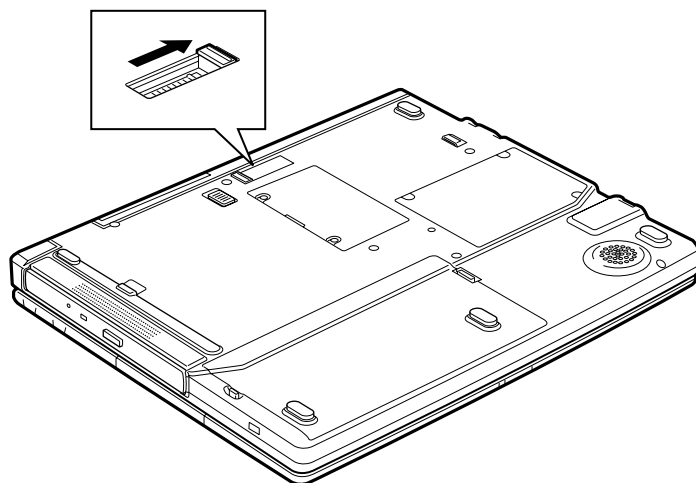
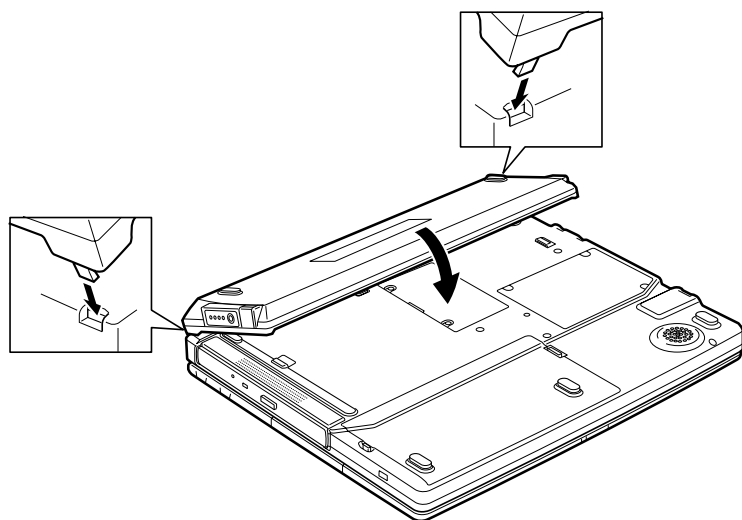
バッテリー 1 を取り付けたときの逆の手順で取り外します。

1 電源を切り、AC アダプターを取り外してパソコンを裏返す。

2 バッテリーロック 2 つを図の方向へスライドさせたまま、バッテリーパックを取り外す。

パソコンに増設するバッテリーパック

取り付け手順

1 パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。

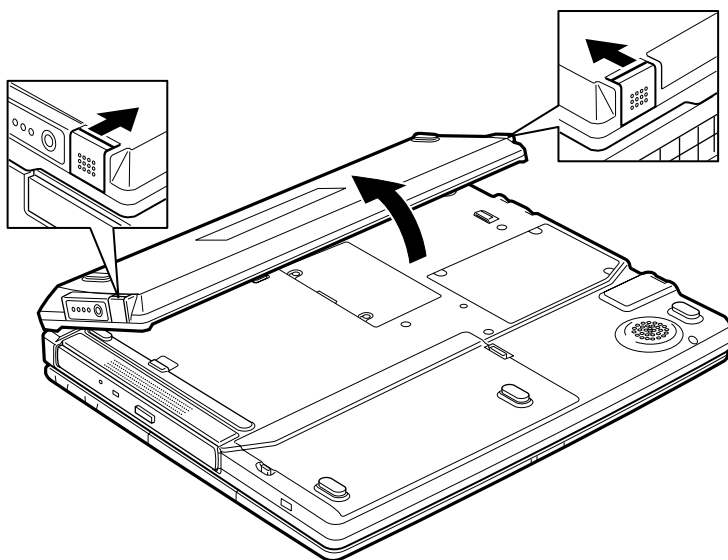
2 バッテリーコネクターのフタをスライドして開ける。

3 **バッテリー 2 のツメ 2 つをパソコン背面の穴に差し込み、バッテリーパックを「カチッ」と音がするまで押し付ける。**

重要

◎ お買い求め直後のバッテリーパックは充電されていません。充電してからお使いください。また、長期間バッテリーを使わなかったときも定期的に 40% ぐらいまで充電してください。

取り外し手順

バッテリー 2 を取り付けたときの逆の手順で取り外します。

1 **電源を切り、AC アダプターを取り外してパソコンを裏返す。**

2 **バッテリーロック 2 つを内側へスライドさせたまま、バッテリー 2 を取り外す。**

バッテリーの充電

バッテリーでパソコンを使うには、まずバッテリーを充電する必要があります。

1 パソコンの電源を切り、バッテリーパックを取り付ける。

2 AC アダプターをパソコンに接続する。

▼充電が始まる。充電中はバッテリーランプが橙色に点灯し、満充電になると緑色に点灯する。

充電時間

パソコンの使用状態と充電時間

Windows XP		パソコンの電源を切って充電	使用しながら充電（またはサスペンド）
Pentium III 1GHZ	バッテリー1	約2.0～3.0時間	約4.0～5.0時間
	バッテリー1 + バッテリー2	約5.0～7.0時間	約8.0～10.0時間
Celeron 1GHz	バッテリー1	約2.0～3.0時間	約4.0～5.0時間
	バッテリー1 + バッテリー2	約5.0～7.0時間	約8.0～10.0時間

・

警告

◎ バッテリーパックは必ずパソコンに取り付けて充電してください。

◎ バッテリーパックは同梱のものかオプション指定されたものを使用してください。それ以外のものを使用すると、電圧、最大出力電流および＋－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

参照

バッテリパックの取り付け方→『パソコンを準備する』1章の「接続しよう」

重要

◎ 放電しきったバッテリーパックや充電せず長期間放置(過放電状態に)したバッテリーパックでは、充電できない場合があります。充電できる場合は、通常時に比べ、充電に時間がかかることがあります。また、バッテリーランプが消灯しても満充電にならない場合があります。Windows の電源メーターで確認し、充電が不十分な場合は、バッテリーパックを取り付け直して再充電してください。

ヒント

★ バッテリーの充電時間は、パソコンの使用環境、周辺機器の接続状況、バッテリーパックの劣化状態などに応じて異なります。

★ パソコンを使用できる環境（温度、湿度）でバッテリーパックを充電しないと、満充電にならないことがあります。

★ 放電直後などでバッテリーパックの温度が高いと、バッテリーランプが点灯するまでに時間がかかることがあります。

重要

◎ バッテリーランプが橙色に点滅した場合は、バッテリパックと AC アダプターを一旦外し、再度取り付けて充電してください。

充電状態の確認

充電状態はバッテリーランプで確認します。

充電中

バッテリーランプが橙色に点灯

満充電

バッテリーランプが緑色に点灯
（バッテリー容量約 90 ～ 100%）

バッテリーでの動作時間

ここでは、バッテリーの動作時間と動作時間を長くする方法について説明します。

バッテリーでの動作時間

Windows XP		動作時間		
		Windows 表示 *1	DVD 再生時 *2	JEITA 測定法 *3
Pentium III 1GHZ	バッテリー1	約3.1時間	約2.0時間	約3.5時間
	バッテリー1 + バッテリー2	約6.6時間	約4.4時間	約7.2時間
Celeron 1GHz	バッテリー1	約3.2時間	約1.7時間	約3.3時間
	バッテリー1 + バッテリー2	約6.7時間	約3.8時間	約6.7時間

＊1:WindowsXP環境で、Windows表示のみでHDD、CD-ROMなどのアクセスはしない状態です。Windows2000、Windows98環境では記載値の約80～90%です。ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲの輝度は出荷時の状態､ﾊﾞｯﾃﾘｰﾊﾟｯｸは出荷直後の状態です。なお、DVD再生など高負荷での使用時では、休止状態に移行できないことがあります。またﾊﾞｯﾃﾘ-をﾒｲﾝにご利用される方は、ﾊﾞｯﾃﾘｰ2を併用してください。上記の時間は目安であり、使用可能時間はバッテリパックの使用状態及び測定温度条件によって、数十分程度異る場合が有ります。また、ﾊﾞｯﾃﾘｰﾊﾟｯｸを使い続けていくと使用可能時間は短くなっていきます。

＊2:DVD再生などの高負荷での使用時では、休止状態に移行できないことがあります。

＊3:JEITA測定法とは、社団法人 電子情報技術産業協会が制定したﾉｰﾄPC共通の「ﾊﾞｯﾃﾘｰ動作時間測定法(Ver1.0)」です。JEITAﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://it.jeita.or.jp/mobile/

JEITA測定法使用可能時間は、下記の設定を行なって測定しています。

1．パワーマネジメント設定[電源オプションのプロパティ]

(1)[電源設定]を「バッテリの最大利用」設定しています。

(2)[電源設定]の[バッテリの最大利用の電源の設定]の時間設定すべてを「無し」に設定しています。

(3)[アラーム]の設定は［バッテリの低下アラーム］，［バッテリ切れアラーム］共に解除しています。

(4)[Intel(R)Speedstep(TM)technoology］の［バッテリで実行している場合］を、「バッテリの最大寿命」に設定しています。
(Windows2000,Windows98のPentiumIIIモデルのみ)

2．液晶輝度設定

(1)測定法Ａ(ＭＰＥＧ再生)
バッテリ駆動時輝度の最大輝度から５段目

(2)測定法Ｂ(Windows表示)
バッテリ駆動時の最低輝度
(輝度の設定は液晶の使用状況及び、測定状況によって異なります。)
測定に使用したモデルは、PC8NS3-HKG4H1110、PC8NS3-HLG4H1110です。

重要

◎ 定期的に完全放電を行わないとバッテリーでの動作時間が短くなります。

動作可能時間を長くするには

バッテリーを長時間使用するには、次の方法で消費電力を抑えて節電してください。

節電機能を使う

節電機能を使うように設定しておくと、一定時間パソコンを操作しないでいると消費電力を抑えます。ディスプレイを閉じることでも節電機能が働きます。また、長い時間使わないときは、電源を切っておきます。

参照

節電機能の設定について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』の２章「消費電力を節約する」

画面を静止させたり、画面の明るさを下げる

■画面を静止させる
スクリーンセーバーなどの画面保護機能を使うときは、「模様なし」（静止画）を選んでください。

■画面の明るさを下げる
[Fn]＋[F6]（☼－）キーを押してディスプレイの明るさを下げると、消費電力を抑えられます。

音量を下げる

スピーカーボリュームで音量を下げると、消費電力を抑えられます。

バッテリーの容量を確認する

ここでは、バッテリー容量の確認方法と、バッテリー容量がわずかになったときの設定について説明します。
どちらも Windows の [電源の管理] または [電源オプション] で行います。

[電源の管理]([電源オプション]) の開き方

1 [スタート]ボタンー([設定])ー[コントロールパネル]をクリックする。

▼ [コントロールパネル] が表示される。

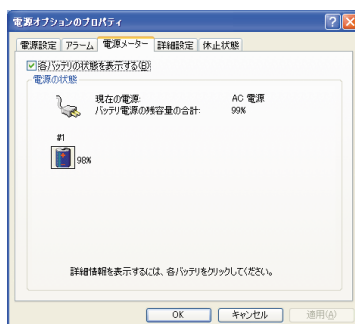
2 [電源の管理]([電源オプション]) をクリックする。

▼ [電源の管理のプロパティ] ([電源オプションのプロパティ]) が表示される。

容量を確認する

1 [電源の管理のプロパティ]([電源オプションのプロパティ]) の [電源メーター] をクリックする。

▼ バッテリーの容量を確認できる。

Windows 98 の場合

Windows XP の場合

ヒント

★ OS によって [電源の管理] や [電源オプション] など名前や画面が多少異なります。ここでは、Windows 98/XP を例に説明します。

ヒント

★ Windowws XP の場合、[コントロールパネル] に [電源の管理] アイコンが表示されていないときは、「クラシック表示に切り替える」をクリックするか、「パフォーマンスとメンテナンス」のカテゴリを選択すると表示されます。

★ [電源メーター] ([バッテリメーター]) は、タスクバーの電池のアイコンをダブルクリックして開くこともできます。

★ 使用環境や動作状態などで容量の値が大きく変動したり正確な値が表示されないことがあります。

★ バッテリーパックを取り付けた直後は、実際の容量と表示される容量の誤差が大きく、一度、満充電にすると誤差は小さくなります。

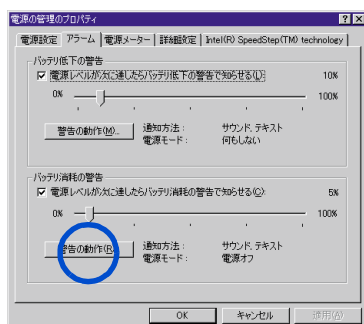
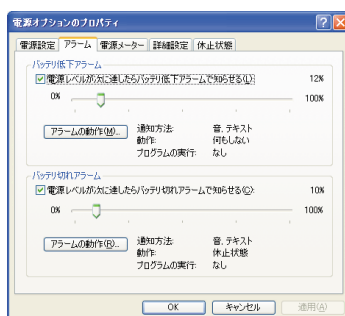
★ 定期的に完全放電を行わないと正確な値が表示されません。

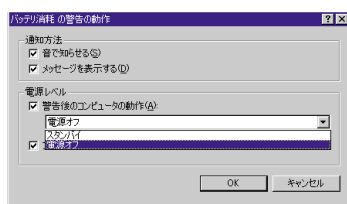
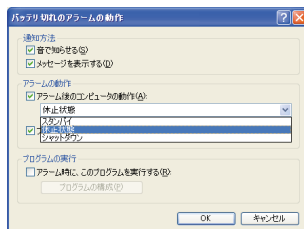
★ バッテリーパックが満充電でも 90 ～ 100%と表示されないことがあります。

バッテリーの容量が少なくなったときの設定

バッテリーの容量がわずかになったとき、パソコンをどうするかを設定できます。標準では、休止状態が働くように設定されています。
Windows 98 の場合は、「電源オフ」状態になるように設定されています。
このほかの設定は標準値のままお使いください。

1 **[電源の管理のプロパティ]([電源オプションのプロパティ]) の [アラーム] タブをクリックする。**

2 **「バッテリ消耗の警告」([バッテリー切れアラーム]) の [警告の動作]([アラームの動作]) ボタンをクリックする。**

Windows 98 の場合

Windows XP の場合

3 **「電源レベル」の「警告後のコンピュータの動作」([アラーム後のコンピュータの動作]) にチェックマークをつけ、[スタンバイ]、または [休止状態] を選び、[OK] ボタンをクリックする。**

Windows 98 の場合

Windows XP の場合

4 **[アラーム] タブで [適用] ボタンをクリックする。**

重要

◎ 定期的に完全放電を行わないと、バッテリーでの動作時間が短くなり、バッテリ低下アラームが早く動作することがあります。

◎ DVD などの高負荷で動作させた場合、休止状態に移行しない場合があります。

重要

◎ Windows 98 の場合は、[休止状態] を選べません。

上手にバッテリーを使う

ここでは、上手なバッテリーの使い方を説明します。

バッテリー 1(AB6600) に適した使用環境

バッテリー 1 の使用の際の動作条件には制限があり、主に下記のような使用環境に適しています。

- ・通常、AC アダプターでの使用がメインで、停電時のリカバリとして
- ・スタンバイ状態でのオフィス間の移動の際など、AC アダプターが使用できない時の状態保持として
- ・主に、低負荷での使用の場合（常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行できない）
- ・寒冷地では、起動時の残量表示が極端に少なくなります。また充電ができない場合があります。その場合は、常温で放置した後に充電してください。

バッテリー 2（AB6610) の併用に適した使用環境

- ・通常、モバイル環境（バッテリー）での使用がメインの場合
- ・バッテリー動作時間を長持ちさせたい場合

バッテリー使用前に、必ずバッテリーを充電する

バッテリーでのご使用の際は、事前に必ず充電してください。特に、バッテリーのみご使用で電源を入れる場合、起動に多くの電力を消費しますので、残量が少ない場合では正常に電源が入らない場合があります。

過放電しない

満充電のバッテリーパックをパソコンに取り付け、AC アダプターを接続せずに1ヶ月以上使用しないと過放電になります。また、残量の少ないバッテリーパックをパソコンに取り付けて 2～3 日放置すると、バッテリ容量が減ります。過放電したバッテリーパックは、充電が始まるまでに数時間かかったり、充電できる容量が少なくなります。また、過放電がひどくなると、そのバッテリーパックは使用できなくなることがあります。

ヒント

★ **バッテリー 1 は、動作するアプリケーションの負荷が大きい場合、使用に制限を受けます。例えばバッテリー使用時にアプリケーションを多数動作させるような高負荷の使用条件では、バッテリー 2 の併用が必要になります。**

重要

◎ **バッテリー1 を高負荷で使用した場合、動作時間が短くなるばかりでなく、バッテリー残量警告が表示される前に、バッテリー保護により電源が切れることがあります。**

参照

使用環境について→ 4 章の「パソコンおよび周辺機器を使用する環境について」(P.67)

AC アダプターとバッテリーパックを付けたまま長時間放置しない

バッテリーが満充電になったら、AC アダプターとバッテリーパックを差したまま長時間放置しないでください。AC アダプターを差していても、バッテリーは少しずつ放電して容量が減ります。バッテリーを再度充電するには、AC アダプターまたはバッテリーパックを接続し直してください。

長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電する

バッテリーは使用しなくても少しずつ消費されています。バッテリーの残量を確認し、15% 以下であれば 40% 位まで充電してください。また、長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は 40% 位まで充電してください。

定期的に完全放電する

使い方によって、見かけ上の残容量が減り、使用時間が短くなることがあります。これを防ぐため、1 ヶ月に 1 回程度、バッテリーを完全放電することをおすすめします。

1 **パソコンの電源を入れ、画面下部に「Press <F12>to enter Boot Menu 」と表示されたら、[F2] キーを押す。**

2 **セットアップメニューが立ち上がったら、AC　アダプターを取り外し、バッテリー駆動にする。**

3 **バッテリーが切れ、パソコンの電源ランプが消灯するまで放置する。**

4 **放電完了後、バッテリーを充電する。**

重 要

◎ **完全放電は、バッテリーを一度満充電してから行ってください。**

◎ **完全放電したまま放置しないでください。バッテリーが過放電状態になります。**

2 章

周辺機器を接続する

この章では、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

◎ 接続する周辺機器には節電機能に対応していないものがあります。
節電機能を使わないように設定してご使用ください。

周辺機器	必要な設定	参照先
マウス テンキーボード	デバイスマネージャ ＊	－
プリンター	プリンタードライバー	プリンター付属のマニュアル
ディスプレイ	・表示ドライバーの セットアップ ＊ ・画面の設定 (必要に応じて) ・マルチディスプレイ表示	参照 電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」 参照 本章の「ディスプレイを複数接続する」(P.34)「マルチディスプレイ表示にする」(P.38)
マイク ステレオ スピーカー ヘッドホン	サウンドドライバーの セットアップ＊	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
PC カード	割り込みの確保	－
モデム	モデムドライバーの セットアップ	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
LAN	BIOS の設定＊	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
USB 機器	デバイスマネージャ ＊	－
IEEE1394 機器	デバイスマネージャ ＊	－

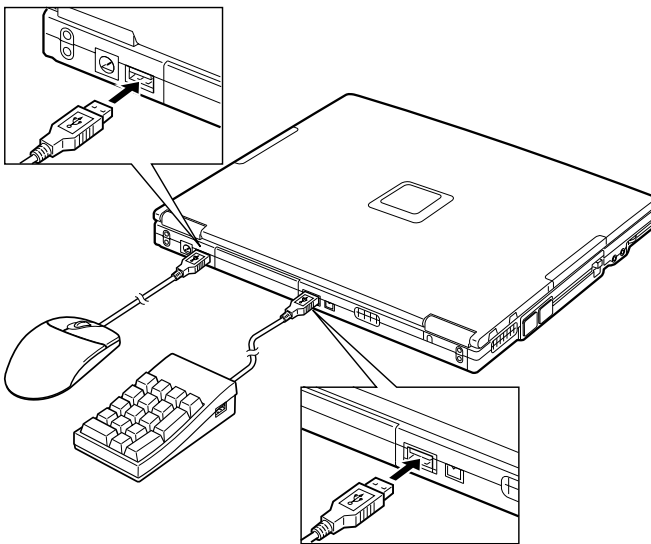
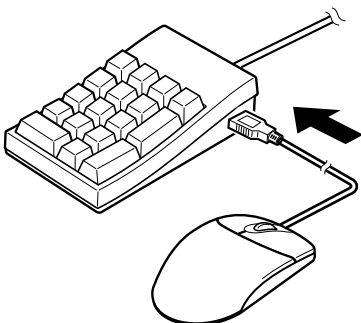
＊ 標準 (パソコン出荷時の状態) で、セットアップまたは設定済みです。

マウス、テンキーボード

ここでは、USB 仕様のマウスおよびテンキーボードの接続方法と、マウスの操作方法について説明します。

接続方法

Windows 98 で、ホイールマウスのスクロール機能を使うときは、接続後、ホイールマウスドライバーをインストールしてください。

1 パソコン背面の USB コネクターに、USB マーク（ ）が上側になるようにしてマウスとテンキーボードのケーブルを接続する。

テンキーボードの USB コネクターに、マウスのケーブルを接続することもできます。

参照

ホイールマウスドライバーのセットアップ（Windows 98 の場合）→電子マニュアル『使い勝手を良くする』3 章の「付属ソフトウェアの使い方」「ホイールマウスドライバー」

重要

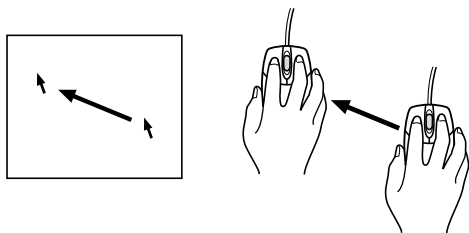
◎ コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。

操作方法

マウスの持ち方

マウスを右手のひらで包み込むように持ち、人差し指を左ボタンに、中指は右ボタンにかかるようにします。

マウスポインターの移動

マウスを動かすと、マウスの動きに合わせてマウスポインターが画面上を動きます。

ポイント

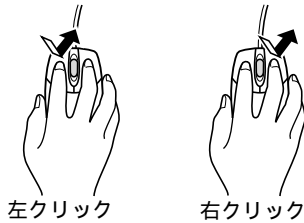
マウスを動かし、マウスポインターを移動し目的の位置に合わせることを、「ポイント」といいます。

◎ マウスを落としたり、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

◎ マウスケーブルを引っ張ったり、マウスをぶら下げて運んだりしないでください。

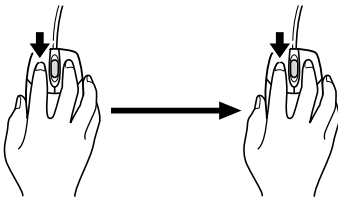
◎ マウスを凹凸がない水平な面で使用するときは、マウスパッドや紙などを敷いて使用してください。マウスは、ボールと滑走面との摩擦で動作するようになっているので、表面がツルツルした凹凸がない場所では正しく動作しないことがあります。

クリック

マウスのボタンを 1 回押します。

ダブルクリック

マウスの左ボタンを、2 回続けて押します。

ドラッグ

マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かします。

ドラッグアンドドロップ

アイコンなどを左ボタンを押して選び、ボタンを押したまま別の場所に移動して指をはなすことを、「ドラッグアンドドロップ」といいます。ファイルの移動やコピーなどに使います。

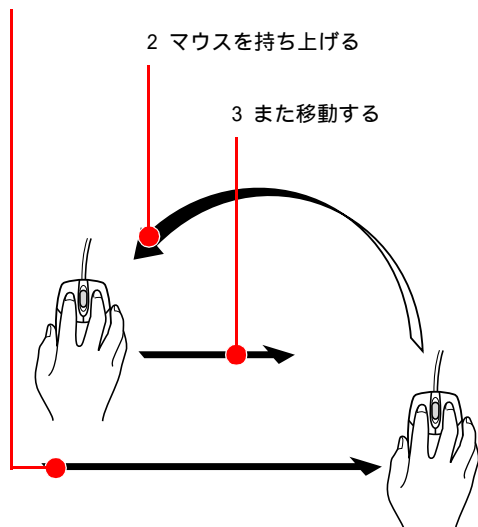
ヒント

★ ダブルクリックするときの速さは、[マウスのプロパティ] 画面で調節できます。

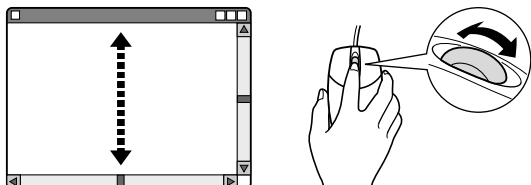
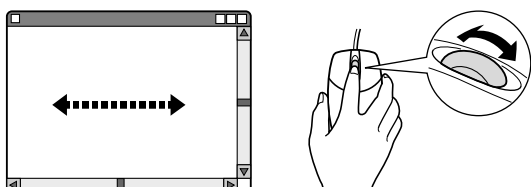
参照

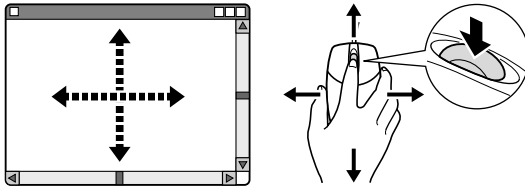
マウスの設定の変更について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「マウスを調整する」または [ポインティングパッド、マウスを調整する]

狭い場所でマウスを使う

マウスポインターをもっと動かしたいのに、マウスを動かす場所がなくなってしまったら、いったんマウスを持ち上げて、元の場所からもう一度動かします。

スクロールする

ウィンドウに表示されている内容を上下に移動して、見えない部分を表示することをスクロールといいます。
ホイールボタンを使うと、簡単にスクロールできます。

●縦にスクロールする
ホイールボタンを回転させると、縦にスクロールします。

●横にスクロールする（Windows 98 のみ）
[Shift] キーと [Ctrl] キーを押しながらホイールボタンを回転させると、横にスクロールします。

●好みのスピードでスクロールする（Windows 98 のみ）

ホイールボタンを真下に押しながらマウスを上下左右に動かすと、好みのスピードでスクロールします。マウスの動きを止めても、ホイールボタンを離すまでスクロールは続きます。

●自在にスクロールする（Windows 98 のみ）

ホイールボタンをクリックしたあと、マウスを上下左右に動かすと、マウスを動かした方向とスピードに合わせてスクロールします。マウスの動きを止めてもスクロールは続きます。もう一度ホイールボタンをクリックすると、スクロールが止まります。

ホイールボタンの使用について

■Windows 98 の場合

・ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。

・［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブで、［MS Office 互換のスクロール機能のみ使用］にチェックマークを付けると、MS Office 互換でないアプリケーションではスクロールできなくなります。

・［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブの各ボタンに割り当てられる機能で、ハイパージャンプなどのホイール機能以外の機能は、アプリケーションによって動作しないことがあります。

■Windows 2000、Windows XP の場合

・ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。

・中央ボタン（ホイール）の機能割り当てやスクロール機能の詳細設定などはできません。

・［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブで、「スクロールサイズ」を［画面単位］、［なし］には設定しないでください。ホイール機能が使用できなくなります。

・［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブで、スクロール、オートスクロール、ユニバーサルスクロールのオプションを［Office 97 互換スクロールのみ有効］に設定すると、Office 97 互換でないアプリケーションではスクロールできなくなります。

ヒント

★「好みのスピードでスクロールする」と「自在にスクロールする」は、［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブで、「自動スクロール」を設定した時の動作です。標準設定は、「自動スクロール」です。［ボタン］タブで、別の機能に変更できます。

★アプリケーションによっては、表示の拡大／縮小や、表示内容の変更を、ホイールを使ってできます。詳細は、マウスのプロパティのヘルプをご参照ください。例えば、インターネットエクスプローラの場合は、［Shift］キーを押しながら、ホイールを回転すると、Web 頁の［進む］、［戻る］ボタンと同じ動きをします。

プリンターを接続する

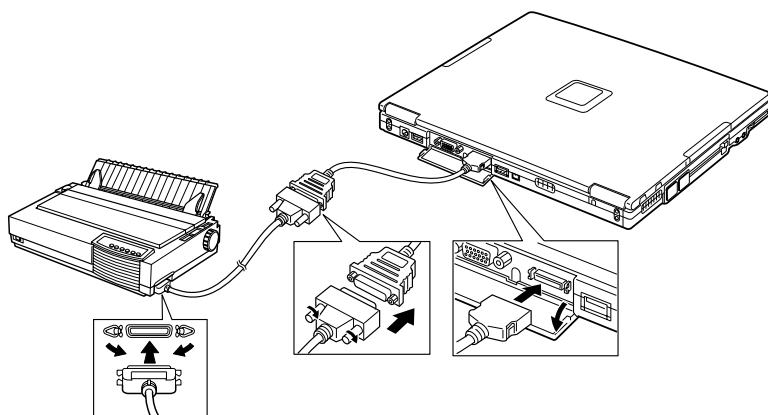
ここでは、パラレルプリンターの接続方法、ドライバーのインストール方法･削除方法、使用するプリンターの選択方法について説明します。

接続方法

1 パソコンの電源を切る。

2 パソコン背面のカバーを開け、プリンターインタフェースコネクターにパラレル変換ケーブルを接続する。

3 パラレル変換ケーブルとプリンターケーブルを接続する。

4 プリンターのコネクターにケーブルを接続し、バネ式ロックをかける。
プリンターのモード設定や用紙のセットなどを行う場合は、パソコンの電源を入れてから行う。

ヒント

★ プリンターを接続するときは、別売のプリンターケーブルとパラレル変換ケーブルをお買い求めください。

参照

プリンターケーブルについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.59)

ヒント

★ SCSI アダプターなど、弊社のオプション機器以外の装置をプリンターインタフェースコネクターへ接続すると、正しく動作しないことがあります。

参照

接続できるオプションについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.59)

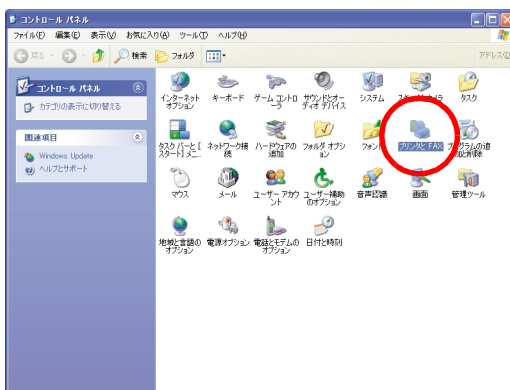
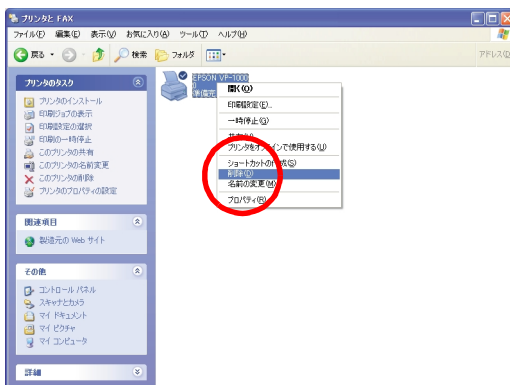
プリンタードライバーのインストール方法

プリンターを使用するには、ドライバーのインストールが必要です。
プリンタードライバーのインストールについては、プリンターに付属のマニュアルをご参照ください。

プリンタードライバーの削除方法

パソコンからプリンターを取り外し、Windows からプリンタードライバーを削除するときは、次のようにします。お使いのプリンターにドライバーを削除 (アンインスール) するユーティリティーがある場合は、そちらをお使いください。
次の説明は一般的な削除方法です。

1 [スタート]ボタン-[コントロールパネル]-[プリンタと FAX]をクリック

▼[プリンタ] ウィンドウが表示される。

2 削除するプリンターのアイコンを右クリックし、[削除]をクリックする。

3 メッセージが表示されたら、[はい] ボタン (または [OK] ボタン) を何度かクリックする。

使用するプリンターの選択

通常使うプリンターを設定する方法と、一時的に別のプリンターに切り替えて印刷する方法を説明します。

[通常使うプリンター] を設定する

1 [スタート]ボタン -[コントロールパネル]-[プリンタとFAX]をクリック

▼ [プリンタ] ウィンドウが表示される。

2 通常使うプリンターを右クリックし、[通常使うプリンタに設定] をクリックする。

▼ 以降、標準で印刷するプリンターは設定したプリンターになる。

使用するプリンターを一時的に切り替える

1 印刷を行うアプリケーションの[ファイル]メニューから[印刷]を選ぶ。

▼ [印刷] ダイアログボックスが開く。

2 プリンターのドロップダウンリストから、一時的に使用するプリンターを選び、[OK] ボタンをクリックする。

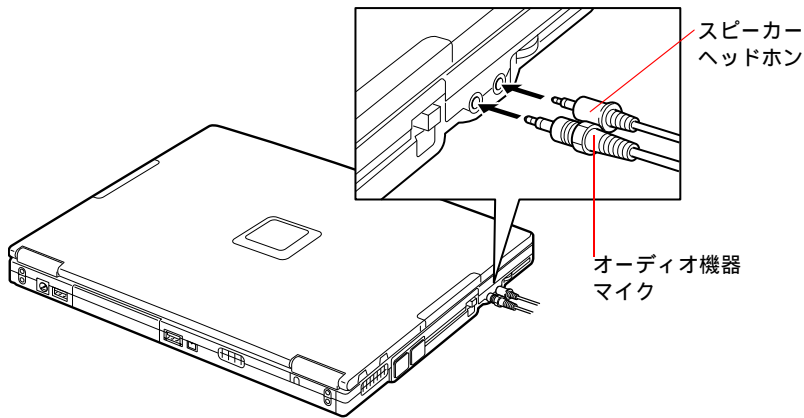
ヒント

★ 削除したプリンターが通常使うプリンターに設定されていたときは、通常使うプリンターを変更するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

ヘッドホン、マイクを接続する

マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。また、ヘッドホンやスピーカーで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。

接続方法

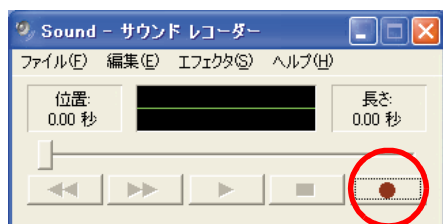
1 パソコン側面の各コネクターに、スピーカーやヘッドホン、マイク、オーディオ機器のコネクターを接続する。

◎ ヘッドホンやイヤホンの使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

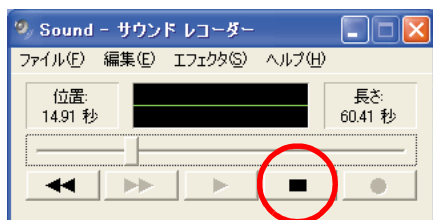
マイクを使って録音する

マイクを使って自分の声などを録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。
ここでは Windows の [サウンドレコーダー] を使って録音する方法を説明します。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]([プログラム]) -[アクセサリ]-[エンターテイメント]-[サウンドレコーダー] の順にクリックする。

▼ [サウンドレコーダー] が立ち上がる。

2 録音ボタンをクリックする。

3 マイクに向かって話す。

4 停止ボタンを押す。

参照

録音レベルの調整→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「音量を調整する」

ヒント

★ 録音した音声は WAV 形式の音声データとして保存することができます。保存するときは、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択してください。

重要

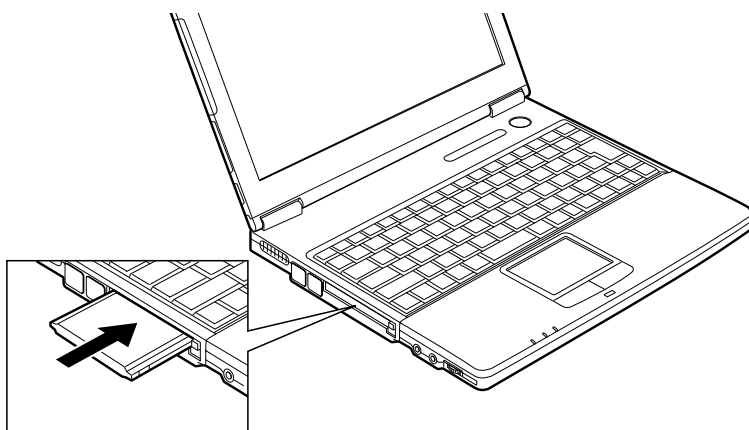
◎ マイクの録音レベルを上げすぎると、音声が歪んだり、ハウリングすることがあります。適度なレベルに調整してお使いください。

PC カード

このパソコンには、Card Bus ／ JEITA Ver 4.2 ／ PCMCIA2.1 仕様の PC カードを 1 枚接続できます。PC カードを接続することで、SCSI 機器などを使用できます。あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け可能であることをご確認の上、取り付けてください。

取り付け手順

1 パソコンの電源を切る。

2 PC カードの表側を上にし、水平にまっすぐ奥までしっかりと PC カードを差し込む。

参照

セットアップについて→電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「アプリケーションを個別セットアップする」

重要

◎ PC カードによっては、CardWizard がセットアップされていると正しく動作しないものもあります。PC カードの取扱説明書または購入先にご確認ください。

◎ TypeIIIのPCカードは厚いため、接続できません。

◎ PC カードはパソコンの電源を切って取り付けてください。電源が入った状態で取り付け／取り外しのできる PC カードもありますが、PC カードによっては正常に動作しないこともあります。

◎ PC カードは、カードの表側を上にして取り付けてください。逆に入れると、コネクターが壊れるおそれがあります。

◎ PC カードは、水平にまっすぐ入れてください。斜めに入れると、奥まで差し込めないことがあります。

取り外し手順

Windows 2000、XP の場合

1 [タスクバー] の [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンをダブルクリックする。

(Windows 2000 では、[タスクバー] の [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンをダブルクリックする。)

▼ [ハードウェアの取り外し] 画面が表示される。

2 [ハードウェア デバイス] から取り外すデバイスを選択し、[停止] ボタンをクリックする。

3 [ハードウェア デバイスの停止] 画面が表示される。

4 取り外す PC カードであることを確認して [OK] ボタンをクリックする。

5 [' XXX ～ ' は安全に取り外すことができます。] 画面が表示される。Windows XP では、タスクトレー上にバルーン表示されます。

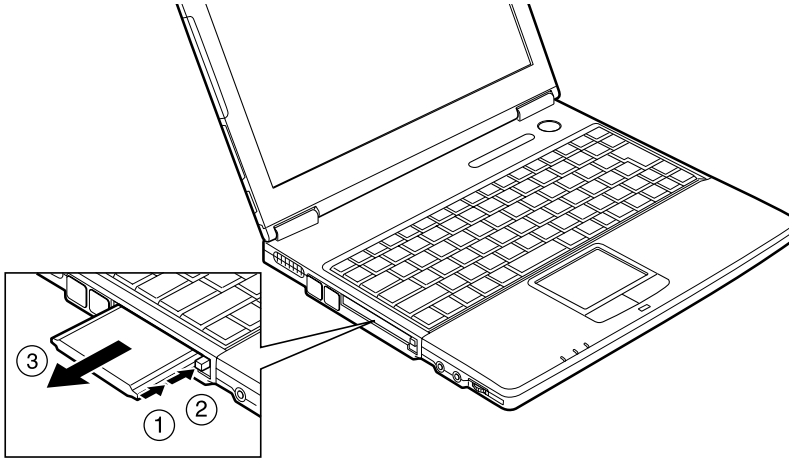
(Windows 2000 では、「' XXX ～ ' は安全に取り外すことができます。」画面が表示される。)

6 [OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

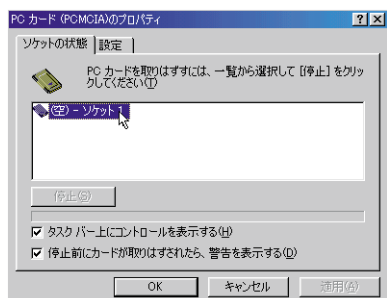
(Windows 2000 では、[OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。)

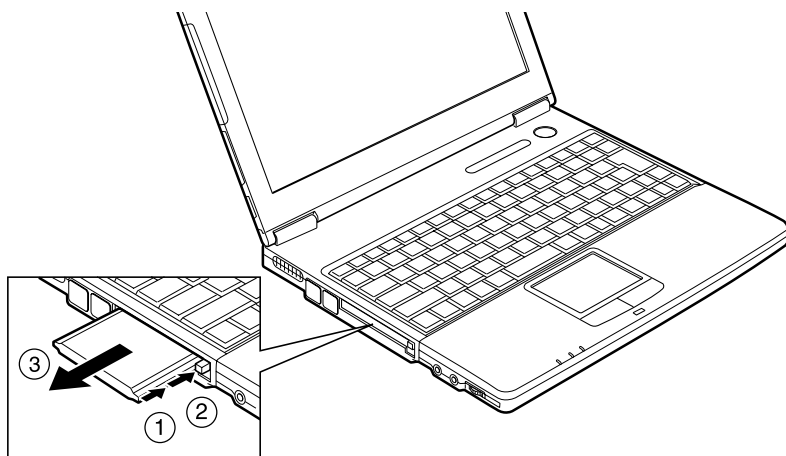
ヒント

★ 画面は、Windows XP を例にしています。

7 **取り出す PC カードのイジェクトボタンを指で押す。出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**

Windows 98 の場合

1 **[コントロールパネル] の [PC カード (PCMCIA)] をダブルクリックしてプロパティーを開く。**

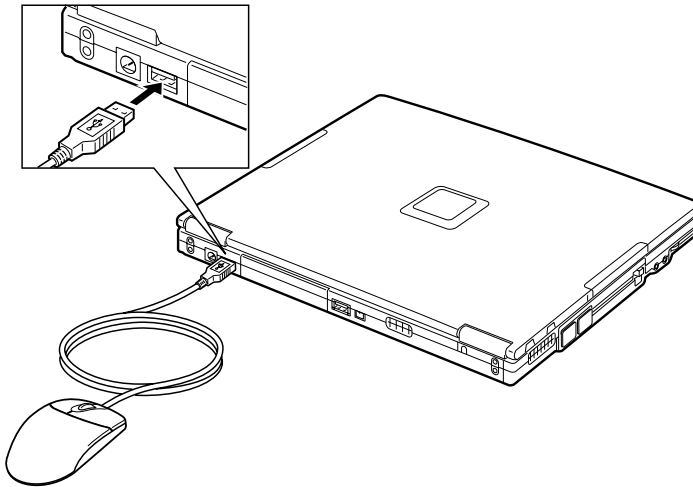
2 **[ソケットの状態] タブで、「ソケット 1」をクリックして [停止] ボタンをクリックする。**

3 **PC カードのイジェクトボタンを指で押す。**

4 **出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**

USB 機器を接続する

このパソコンにはUSB(Universal Serial Bus)機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 パソコン背面の USB コネクターのどちらかに USB マーク（ ）が上側になるようにして USB ケーブルを差し込む。

ヒント

★ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。

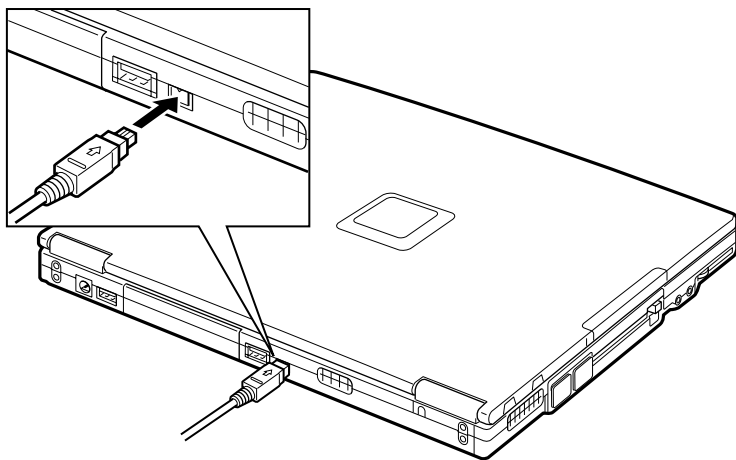
★ USB 機器を使用するには、[デバイスマネージャ」で USB コントローラを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。

IEEE1394 機器を接続する

このパソコンには IEEE1394 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、IEEE1394 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 パソコン背面の IEEE1394 コネクターに、4 ピンの IEEE1394 ケーブルを差し込む。

ヒント

★ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。

★ IEEE1394 機器を使用するには、[デバイスマネージャ」で1394 バスホストコントローラを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。

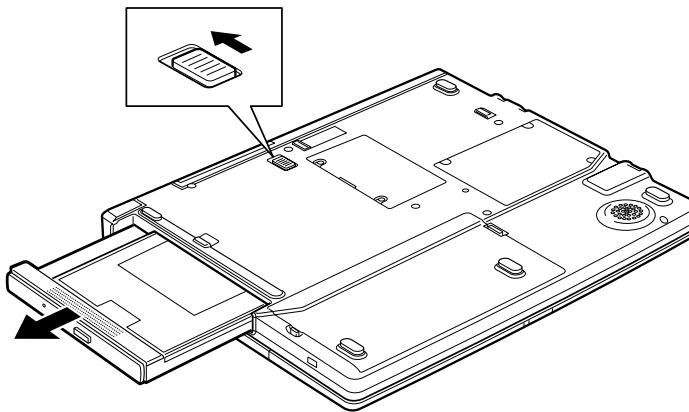
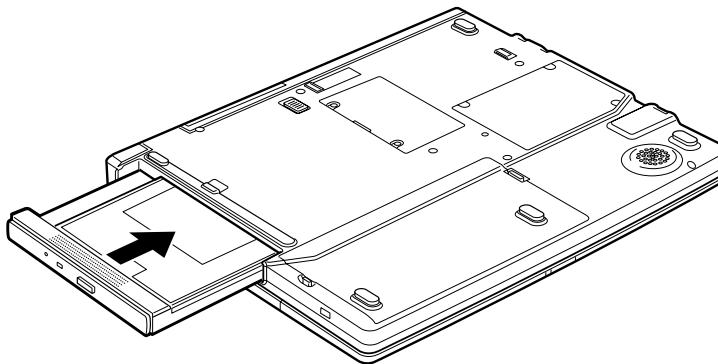
★ 6 ピンの IEEE1394 ケーブルは接続できません。市販の変換ケーブルを使用して下さい。

マルチパーパスベイ

マルチパーパスベイには、CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブなどを接続できます。
ここでは、CD-ROM と DVD-ROM & CD-R/RW ドライブを例に入れ替える方法を説明します。

接続方法

1 パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。

2 マルチパーパスベイロックを引いたまま CD-ROM ドライブを取り外す。

3 DVD-ROM & CD-R/RW ドライブを取り付ける。

重要

◎ ドライブなどを取り付ける場合は、ドライブの中央をゆっくり押してカチッと音がするまで水平に押し込んでください。端を押して斜めに入れると壊れる場合があります。

◎ スタンバイ、または休止に移行した状態で、ドライブの変更及び取り外しを行わないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

ディスプレイを複数接続する

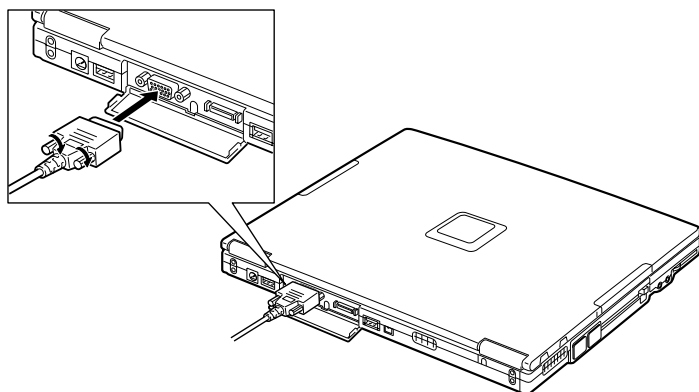
外付けディスプレイを接続すると、パソコンと外付けディスプレイに同じ画面を表示（ 同時表示 ）できます。さらに、Windows XP、Windows 98 の場合は、1 つの画面を 2 台のディスプレイで、広げて表示（マルチディスプレイ表示）できます。

重要

◎ Windows 2000 では同時表示のみを行うことができます。

接続方法

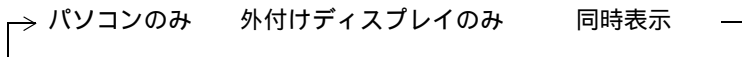
1 **パソコンの電源を切る。**

2 **パソコン背面のカバーを開け、ディスプレイインタフェースコネクターに外付けディスプレイのケーブルを接続する。**

表示先を切り替える

画面表示は、パソコンのみ、外付けディスプレイのみ、同時表示に切り替えることができます。

キーで切り替える

[Fn] キーを押しながら、[F5] キーを押します。押すたび、次のように表示先が切り替わります。

→ パソコンのみ→ 外付けディスプレイのみ → 同時表示

[画面のプロパティ] で切り替える

ここでは、外付けディスプレイにのみ表示させる方法を例に説明します。

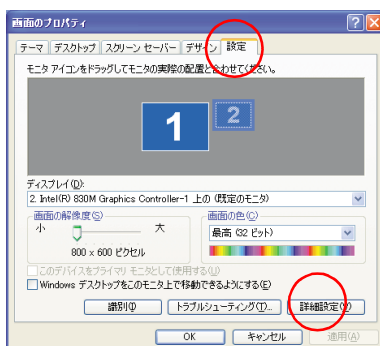
■Windows XP、2000 の場合

1 「スタート] ボタン− [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。

Windows 2000 では、[スタート] ボタン−[設定] − [コントロールパネル] − [画面] アイコンをダブルクリックする。

▼ [画面のプロパティ] が表示される。

2 [設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。

(Windows 2000 では、[詳細] ボタンをクリックします。)

▼ [ﾌﾟﾗｸﾞ ｱﾝﾄﾞ ﾌﾟﾚｲ ﾓﾆﾀと Intel(R) 82830M Graphics Controller-...] が表示される。

重 要

◎ 外付けディスプレイが未接続の場合は切り替わりません。

◎ キーでの画面表示の切り替えは、本体モニターを外部ディスプレイがサポートする解像度と色数の範囲以内に設定後にしてください。

◎ 表示先の切り替えは、一時的に切り替わるだけで、電源を入れ直すと同時表示に戻ります。再起動後も設定を保持したい場合には、画面のプロパティで切り替えを行ってください。

重 要

◎ Windows XP、Windows 2000 で [3 D スクリーンセーバー] を使用する場合、[設定] − [画面の設定] の [表示モード] は、[自動] 以外の設定では使用しないでください。

◎ Windows Media Player 8 を使用して、動画を全画面表示で再生する場合は、[ツール] − [オプション] の [パフォーマンス] タブ上の [詳細] ボタンをクリックし、[オーバレイを使う] のチェックを外して再生してください。その時、[ビデオミキシング レンダラを使う] と [旧ビデオ レンダラ] の項目のチェックを外さないでください。

3 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] が表示される。

4 [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面の [デバイス] タブ上の [PC モニタ] アイコンをクリックする。

▼ [PC モニタ] アイコンに赤いチェックがつく。

5 [デバイス] タブ上の [設定] を以下に設定し、[OK] ボタンをクリックする。

設定　色　True Color
画面領域　1024 × 768
リフレッシュレート 60Hz

▼ [デスクトップ変更の確認] 画面が表示される。

6 外付けディスプレイに表示されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

重 要

◎ 外部ディスプレイがサポートしない解像度と色数に設定はしないでください。

■Windows 98 の場合

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

▼ [画面のプロパティ] が表示される。

3 [詳細] ボタンをクリックする。

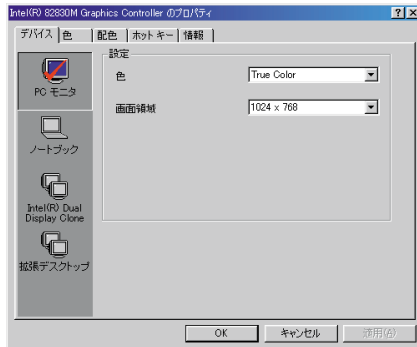
▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller-... のプロパティ] が表示される。

重 要

◎ 画面表示の切り替えは、本体モニターを外部ディスプレイがサポートする解像度と色数の範囲以内に設定後にしてください。

4 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックスのプロパティ] ボタンをクリックする。

5 [デバイス] タブ中の、[PC モニタ] アイコンをクリックする。

▼ [PC モニタ] アイコンに赤いチェック印がつく。

6 [適用] ボタンをクリックし、外付けモニターに表示されたことを確認し、[OK] ボタンを数回クリックする。

マルチディスプレイ表示にする

パソコンと外付けディスプレイでデスクトップ領域を広げて表示できるマルチディスプレイ（またはマルチモニタ）表示の設定を説明します。
Windows XP、Windows 98 の場合、マルチディスプレイ表示ができます。

■Windows XP の場合

1 **外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。**

2 **[コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。**

▼[画面のプロパティ] が表示される。

3 **[詳細設定] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。**

▼[Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] が表示される。

4 **[Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面の [デバイス] タブ中の [拡張デスクトップ] のアイコンをクリックする。**

▼[拡張デスクトップ] アイコンに赤いチェックがつく。

5 **[デバイス] ボタンをクリックする。**

▼[デバイス設定] が表示される。

ヒント

★ マルチディスプレイ表示にしたときは、[Fn] ＋ [F5] キーを押しても、画面表示は切り替わりません。

重要

◎ Windows 2000 では、マルチディスプレイの設定はできません。

◎ マルチディスプレイ表示で、3D スクリーンセーバーをプレビューすると、IME ツールバーが点滅表示される場合があります。

◎ マルチディスプレイ表示で、3D スクリーンセーバーから復帰後、デスクトップの壁紙が正常に表示されない場合があります。その場合には、立ち上げ直してください。

◎ アプリケーションによっては、マルチディスプレイ表示のセカンダリディスプレイに移動すると、正常に表示されない場合があります。その場合、プライマリディスプレイで表示させてください。

◎ マルチディスプレイでご利用中、画面の解像度、色の設定変更を行わないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

6 [ノートブック (プライマリ)] の [設定]、[モニタ (セカンダリ)] の [設定] をそれぞれ以下に設定し [OK] ボタンをクリックする。

色：High Color
画面領域：1024x768

▼ [IntelR 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

7 [OK] ボタンをクリックする。

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

8 外付けモニタに画面が広がり、マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

■Windows 98 の場合

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

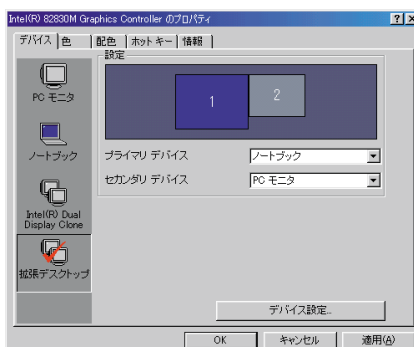
▼ [画面のプロパティ] が表示される。

3 [詳細] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller-... のプロパティ] が表示される。

4 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックスのプロパティ] ボタンをクリックする。

5 [デバイス] タブ中の、[拡張デスクトップ] アイコンをクリックする。

▼ [拡張デスクトップ] アイコンに赤いチェック印がつく。

重 要

◎ Windows XP でマルチモニタに設定した場合、[モニタの電源を切る] を設定しても、外付けモニタがモニタ OFF しない場合があります。

重 要

◎ 「プラグ アンド プレイモニタを自動的に検出する」にチェックをしてから、外付けディスプレイを接続し、電源を入れてください。

6 [適用] ボタンをクリックし、外付けモニターに画面が広がり、マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンを数回クリックする。

同時表示に戻す

マルチディスプレイ表示から同時表示にする手順を説明します。

■Windows XP、Windows2000 の場合

1 **マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で [画面のプロパティ] を表示し、[設定] タブを開く。**

2 **[詳細設定] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。**

Windows2000 では、[詳細] ボタン -[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

3 **[Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] タブ上の [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする。**

▼ [Intel(R) Dual Display Clone] に赤いチェックがつく。

4 **[デバイス] ボタンをクリックする。**

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

5 **[ノートブック（プライマリ）] の [設定]、[モニタ（セカンダリ）] の [設定] をそれぞれ以下に設定し [OK] ボタンをクリックする。**

ノートブック（プライマリ）　色：High Color
画面領域：1024 × 768
モニタ（セカンダリ）　リフレッシュレート：60HZ

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

重 要

◎ 同時表示設定時は、ノートモニタ、外付けモニタともに、解像度 1024 × 768、画面の色 32 ビットに設定してください。

ヒント

★ [(既定のモニタ) と Intel(R) 82830M Graphics Controller-* のプロパティ] に [Intel(R) Graphics Technology] タブが表示されない場合、[画面のプロパティ] を一旦閉じ、再度表示させてください。

6 [OK] ボタンをクリックする。

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

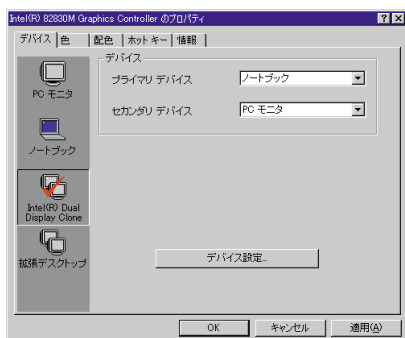
7 同時表示に設定されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックする。

■Windows 98 の場合

1 マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で [画面プロパティ] を表示し、[設定] タブを開く。

2 [詳細] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] が表示される。

3 [デバイス] タブ上の [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする。

▼ [Intel(R) Dual Display Clone] に赤いチェックがつく。

4 [デバイス設定] ボタンをクリックする。

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

5 [ノートブック（プライマリ)] の [設定]、[モニタ（セカンダリ)] の [設定] をそれぞれ次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

ノートブック（プライマリ）	**色：High Color**
	画面領域：1024 × 768
モニタ（セカンダリ）	**リフレッシュレート：60Hz**

▼ [Intel(R) 82830 Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

重要

◎ 外部ディスプレイがサポートしない解像度と色数に設定はしないでください。

6 **[OK] ボタンをクリックする。**

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

7 **同時表示に設定されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックする。**

解像度

マルチディスプレイ表示で設定するディスプレイ１とディスプレイ２の解像度は、次の組み合わせに従って設定してください。また各ディスプレイの色数は同じ値に設定してください。

ディスプレイ 1 の解像度	ディスプレイ 2 の解像度	
640 × 480 *1	640 × 480	*1
	800 × 600	
	1024 × 768	
	1280 × 1024	*2
800 × 600	640 × 480	*1
	800 × 600	
	1024 × 768	
	1280 × 1024	*2
1024 × 768	640 × 480	*1
	800 × 600	
	1024 × 768	
	1280 × 1024	*2

＊ 1:Windows XP では、解像度 640 × 480 は表示できません。
＊ 2:外付けディスプレイのみ設定可能です。

その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したとき、自動的に Windows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。
[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属しているマニュアルをよくお読みください。そのマニュアルに操作手順が記載されている場合は、そちらの手順を行ってください。

ヒント
★ メモリーの増設などでは、環境を設定する必要はありません。
★ 周辺機器の取り付け･取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。**

3 **必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。**

4 **パソコンの電源を入れる。**

ヒント
★ USB 機器や IEEE1394 機器のように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

5 **[コントロールパネル] の [ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリックする。**

▼ [ハードウェアの追加ウィザード] が表示される。

6 **[次へ] ボタンを 2 回クリックする。**

▼ 新しい周辺機器の検出が始まる。

7 **しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。**

ヒント
★ メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからないときは、[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

8 **[完了] ボタンをクリックする。**

▼ 検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

無線 LAN の取り付けかた

(この記述は、(財) 電気通信端末機器審査協会 (JATE) に定められた表示です。)
通常、無線 LAN を取り付ける必要はありませんので、お客様自身では行わないでください。作業が必要なときは、お買い求め先にお問い合わせください。

1 **バッテリーを外す。**

2 **MiniPCI カバーについているネジ 3 本を外し、MiniPCI カバーを外す。**

3 **無線 LAN ボードをコネクターに挿入する。**

4 **アンテナケーブルとモデムケーブルを無線 LAN ボードに接続する。**
(アンテナケーブルは左右２箇所分あります。)

5 **MiniPCI カバーを取り付けネジ 3 本で固定する。**

6 **バッテリーを取り付ける。**

ヒント

★ 購入時の選択によります。

3 章

日常のお手入れ

この章では、パソコンの各部分のお手入れについて説明します。

お手入れ

ここではパソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。
パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。またバッテリーパックを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。

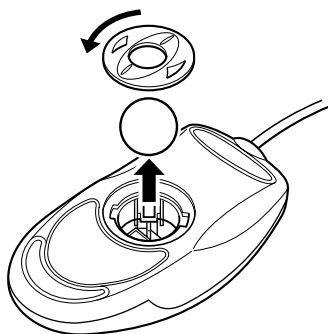
パソコン

パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。

マウス

1～3カ月に1回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。また、ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

クリーニング手順

1 **マウス底面の中央にあるフタを図のように反時計回りに回す。**
フタを外して、中のボールを取り出す。

2 **ボールを中性洗剤を薄めた水で洗う。**

重要

◎ シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。

重要

◎ 専用クリーナーは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

ヒント

★ ボールは中性洗剤を薄めた水で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
また、化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

3 **乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。**

4 **乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやホコリを取り除く。**

5 **マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順でフタを取り付ける。**

フロッピーディスクドライブ

FDD は長期間使用しているとヘッドが汚れ、データを読み書きする際にエラーが発生しやすくなります。1～3 カ月に 1 回は市販のクリーニングキットでクリーニングをすることをお勧めします。クリーニングの方法については、クリーニングキット付属のマニュアルをご参照ください。付属のマニュアルがない場合は、次の手順を行ってください。

ヒント
★ クリーニングキットは乾式・湿式両方とも使用できます。
★ クリーニングキットは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

クリーニング手順

1 **[スタート] ー [(すべての) プログラム] ー [アクセサリ] ー [コマンド プロンプト] をクリックする。**

(Windows 98 の場合は、[スタート] ー [プログラム] ー [MS-DOS プロンプト] をクリックします。)

▼ [コマンド プロンプト]([MS-DOS プロンプト]) ウィンドウが表示される。

2 **クリーニングディスクを FDD に挿入する。**

3 **クリーニングするドライブに対して、dir と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**

▼ エラーが表示される。

4 **表示されるメッセージに従って、[R] キーを押す。4、5 回繰り返す。**

(Windows XP と Windows 2000 では手順 3 に戻ります。)

5 **exit と半角で入力し、[Enter] キーを押す。ウィンドウが消える。**

(Windows 98 では、表示されるメッセージに従って [A] キーを押して終了する。)

CD-ROM ドライブ

CD-ROM のドライブでは、ドライブ内部のピックアップレンズにほこりなどが付くと、ディスクのデータが読み取りにくくなります。市販のピックアップクリーニングディスクを使用し、月に１度はピックアップレンズのクリーニングをすることをお勧めします。また、ディスクの読み込みエラーが発生したときなどにも、ピックアップレンズのクリーニングをしてください。クリーニングの方法については、ピックアップクリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

ヒント

★ **ピックアップクリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。**

CD-R/RW ドライブ

データ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

重要

◎ **クリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。**

ヒント

★ **クリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。**

DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ

データ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

4 章

技術情報

この章では、パソコンのシステム構成および仕様について説明します。

ドライブとディスクの仕様

CD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度　＊	最大 24 倍速
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(0.5dB ～－ 3.0dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	128KB
転送レート	最大 3600KB/s
質量	約 210g

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み取りが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

対応している CD-ROM ディスク

次の CD-ROM を使用できます。
・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD-EXTRA(CD-Plus)
・ VIDEO CD
・ CD-R/RW

重 要

◎ **使用する CD-ROM によって、専用ソフトが必要です。**

CD-R/RW ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度 ＊	CD-ROM/R：最大 24 倍速、CD-RW：最大 16 倍速
書き込み速度	CD-R ：最大 16 倍速 CD-RW：最大 10 倍速 (High Speed CD-RW 媒体使用時) 最大 4 倍速 (1 ～ 4 倍速 CD-RW 媒体使用時)
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(± 3.0dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	2MB
転送レート (Read)	CD-ROM/R：最大 3600KB/s、CD-RW：最大 2400KB/s
転送レート (Write)	CD-R：最大 2400KB/s,CD-RW：最大 1500KB/s
質量	約 280g
推奨ディスク	CD-R：太陽誘電 (株) 製、TDK(株) 製、 三井化学 (株) 製、三菱化学 (株) 製、 (株) リコー製、日立マクセル (株) 製 CD-RW：三菱化学 (株) 製、(株) リコー製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み取りが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・ CD-R
・ CD-RW
・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD-EXTRA(CD-Plus)
・ VIDEO CD

◎ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。

◎ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。

◎ 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。

DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度 ＊	DVD-ROM ：最大 8 倍速 CD-ROM ：最大 24 倍速
書き込み速度	CD-R ：最大 8 倍速 CD-RW：最大 8 倍速 (High Speed CD-RW 媒体使用時) 最大 4 倍速 (1 〜 4 倍速 CD-RW 媒体使用時)
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20 〜 20kHz(± 3dB)
出力チャンネル	2ch
バッファメモリー	2MB
転送レート（Read）	DVD-ROM ：最大 10800KB/s CD-ROM ：最大 3600KB/s
転送レート（Write）	CD-R ：最大 1200KB/s CD-RW ：最大 1200KB/s
質量	約 340g
推奨ディスク	CD-R ：太陽誘電 (株) 製、 三井化学 (株) 製、三菱化学 (株) 製、 (株) リコー製、日立マクセル (株) 製、 CD-RW ：三菱化学 (株) 製、(株) リコー製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み取りが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

- CD-R
- CD-RW
- CD-DA(オーディオ CD)
- CD-ROM(mode1、mode2)
- CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
- PhotoCD(シングル / マルチセッション)
- CD EXTRA(CD-Plus)
- VIDEO CD
- DVD-ROM
- DVD-R（3.95GB ディスクのみ）
- DVD-RAM
- DVD-VIDEO

重要

◎ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。

◎ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。

◎ 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。

フロッピーディスクの仕様

■2HD

容 量	1.44MB	1.25MB
トラック数／面	80	77
セクター長 (バイト)	512	1024
セクター数／アロケーションユニット	1	1
リザーブセクター数	1	1
FAT 数	2	2
ルートディレクトリー登録総数	224	192
総セクター数	2880	1232
メディア･ディスクリプタバイト	F0	FE
セクター数／ FAT	9	2
セクター数／トラック	18	8
ヘッド数	2	2
隠しセクター	0	0
動作	R/W/F/B ＊	R/W ＊

＊ 意味は次の通りです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

■2DD

容 量	720KB
トラック数／面	80
セクター長 (バイト)	512
セクター数／アロケーションユニット	2
リザーブセクター数	1
FAT 数	2
ルートディレクトリー登録総数	112
総セクター数	1440
メディア･ディスクリプタバイト	F9
セクター数／ FAT	3
セクター数／トラック	9
ヘッド数	2
隠しセクター	0
動作	R/W/F/B ＊

＊ 意味は次の通りです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

ヒント

★ オプション品です。

◎ 特殊なフォーマットの FD は使用できないことがあります。

◎ 弊社製以外のパソコンでフォーマットした FD は、読み書きができないことがあります。

◎ Windows XP では、2DD の FD はフォーマットできません。

ドライブの使用について

CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ、フロッピーディスクドライブ（以下、まとめてドライブ）と、それらのディスクの使用について説明します。

ドライブの取り扱い

- ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読めないことがあります。
- パソコンの電源を切るときは、必ずディスクを取り出してからにしてください。ディスクを内蔵ドライブに入れたまま誤ってパソコンの電源を切ったときは、再び電源を入れて取り出してください。
- ディスク強制イジェクトスイッチを使うときは、内蔵ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。
- ディスクが偏重心している場合（ラベルをはっている場合など）、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み取りスピードが遅くなることがあります。
- パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット（[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押す）を行うときは、ドライブのアクセスランプが消えてから行ってください。
- ドライブのアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
- ドライブは、5 ～ 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
- ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレーを開けないでください。
- トレーの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
- CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R/RW を書き込み中に傷や汚れを検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- フロッピーディスクドライブなど、データの転送速度が遅いディスクドライブから CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
- CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R や CD-RW にデータを書き込む時は、ほかのアプリケーションを終了してください。書き込み中も、ほかのアプリケーションを立ち上げないでください。データが壊れることがあります。
- WAVE ファイル、AVI ファイルなどの音声を再生中に、FD に書き込み、読み込みを行うと音声が繰り返して再生されることがあります。
- MS-DOS プロンプトやコマンドプロンプトで、1.25MB の FD は使用できません。Windows でお使いください。
- FDD の場合、未フォーマットなどのディスクに対してアクセスを行うと、ディスクを認識するまでに時間がかかります。このため、フォーマットに時間がかかることがあります。動作は正常ですのでしばらくお待ちください。

CD-ROM/CD-R/CD-RW/DVD-ROM の取り扱い

・ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
・ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
・ディスクは高温な場所に保管しないでください。
・ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
・ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
・ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
・お子さまがディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子さまの手の届かないところに保管してください。
・CD-RW の書き換え可能回数は 1000 回です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。

フロッピーディスクの取り扱い

・FD のシャッター部は開けないでください。内部の磁性面が汚れると使えなくなります。
・磁石やスピーカーなどの強い磁界を発生するものに FD を近づけると、記録したデータが消去するおそれがあります。
・FD は次のような場所に保管してください。
保管温度：4 ℃～ 53 ℃
保管湿度：10 ～ 90%Rh(結露しないこと)
最大湿球温度：25 ℃
・FD ラベルは正しい位置にはってください。ラベルを替えるときは、重ねばりをしないでください。
・FD は消耗品です。同じ FD を長期間使用しないでください。
・大切なデータは必ずバックアップを取ってください。また、バックアップ FD はバックアップ以外の目的に使わないでください。

その他の周辺機器の仕様

メモリーボードの仕様

項目	仕様
形名	MK7133 MK7259
容量	128MB/256MB
パリティ	なし
DRAM タイプ	SDRAM、PC133
DIMM タイプ	SO-DIMM 144 ピン
電源電圧	3.3V

バッテリーパックの仕様

項目	仕様	
形名	PC-AB6600	PC-AB6610
平均容量	3600mAh	
公称電圧	11.1V	

マウスの仕様

項目	仕様
形名	KM5430
外形寸法	62mm(W) × 120.8mm(D) × 37.5mm(H)
質量	約 120g
ケーブル長	約 1000mm
インタフェース	USB 準拠

ヒント

★ 周辺機器の使用環境はパソコンと同じです。

オプション一覧表

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。
オプション機器は随時、生産中止、新製品発表などがありますので
ご購入の際は、営業などにお問い合わせください。

分類	品名	形名	仕様	
ディスプレイ	ディスプレイ装置	DC1556	15 型カラーマルチスキャン	
		DC1702	17 型カラーマルチスキャン	
入力装置	テンキーボード	KB3450	USB、17 キー USB IF 付き	
	マウス	KM5430	USB、2 ボタン ホイール付き	
	Link Stick	KX1100	ハンドイメージスキャナ USB I/F	
メモリー	メモリーボード	MK7133	128MB、SDRAM SO-DIMM、 PC133	
		MK7259	256MB、SDRAM SO-DIMM、 PC133	
アクセサリー	AC アダプター	AP6600	AC コード添付	
	バッテリー 1	AB6600	リチウムイオン	
	バッテリー 2	AB6610	リチウムイオン	
	ウェイトセーバー	AJ2100		
	スマートカード リーダーライター	KC5700	外付け、USB I/F	
	スマートカード リーダー / ライター ユニット	KC7000	内蔵	2002/7 予定
	スマートカード	AZ2100		
	Bluetooth USB アダプタ	PC-CL3100	外付け、USB I/F	
	Bluetooth ユニット	CL5000	内蔵	2002/7 予定
ファイル装置 (外付)	増設光磁気ディスク 装置	FM1643	640MB、SCSI-2 I/F (PC カードスロット 1 専用)	
		FM2130	1.3GB、SCSI-2 I/F (PC カードスロット 1 専用)	
	USB FDD	UF2231	USB I/F	

分類	品名	形名	仕様	
ファイル装置 (内蔵)	CD-ROM ユニット	UC6400	読み取り　最大 24 倍速	
	CD-R/RW ユニット	UC6410	書き込み CD-R　：最大 16 倍速 CD-RW　：最大 4 倍速 *1 読み取り CD-ROM ：最大 24 倍速 CD-RW　：最大 16 倍速	
	DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ	UC6420	書き込み CD-R　：最大 8 倍速 CD-RW　：最大 4 倍速 *2 読み取り CD-ROM ：最大 24 倍速 DVD-ROM：最大 8 倍速	
	マルチメモリーカード リーダー / ライター ユニット	CZ3200	コンパクトフラッシュ、SD カード、マイクロドライブ、マルチメディアカード、メモリースティック、スマートメディア対応	2002/7 予定
PC カード	無線 LAN カード	CN3400		＊3
ケーブル	パラレル変換ケーブル	AT1120		
	携帯電話接続ケーブル	PC-LM3010	USB I/F	
	PHS 接続ケーブル	PC-LM3020	USB I/F	
	H"(AirH" 対応) 接続ケーブル	PC-LM3030	USB I/F	
	CDMA1 接続ケーブル	PC-LM3040	USB I/F	

この一覧表以外のオプションは、使用しないでください。正しく動かないことがあります。
＊1 ：High Speed CD-RW 媒体使用時、最大 10 倍速。
＊2 ：High Speed CD-RW 媒体使用時、最大 8 倍速。
＊3 ：無線 LAN 内蔵パソコンでは使用できません。

分類	品名	形名	仕様	
プリンター	シリアルドットプリンター	PD2080	75 字 / 秒、136 桁	＊4
		PD2130	125 字 / 秒、136 桁	＊4
		PD2161	160 字 / 秒、136 桁	＊4
	水平インサータープリンター	PD4080S	75 字 / 秒、136 桁	＊4
		PD4081	80 字 / 秒、136 桁	＊4
		PD4130	130 字 / 秒、136 桁	＊4
		PD3161	160 字 / 秒、136 桁	＊4
	ラインプリンター	PN5200	280 行 / 分、136 桁	
		PN5400	500 行 / 分、136 桁	
		PN5600	800 行 / 分、136 桁	＊5
		PN5600P	800 行 / 分　パワースカッターモデル、136 桁	＊5
	モノクロページプリンター	PL2170	16 枚 / 分、A4 モデル	＊4
		PL2450	20 枚 / 分、A3 モデル	＊4
		PL2560	22 枚 / 分、A3 モデル	＊4
		PL2700	32 枚 / 分、A3 モデル	＊4
		PL2810	40 枚 / 分、A3 モデル	＊4
	カラーページプリンター	PK3000	カラー 6 枚 / 分、モノクロ 24 枚 / 分、A3 モデル	
		PK3000N		
		PK3500N		
		PK2000	カラー 6 枚 / 分、モノクロ 24 枚 / 分、A4 モデル	
		PK2000N		
		PK2500N		
		PK4700N	カラー 29 枚 / 分、モノクロ 29 枚 / 分、A3 モデル	
		PK4800	カラー 12.5 枚 / 分、モノクロ 50 枚 / 分、A3 モデル	＊4
	連続紙ページプリンター	PL9120	1650 行 / 分	

分類	品名	形名	仕様	
シリアルドット/ラインプリンターオプション	イージーセットフィーダー	AS40801S	PD4080S 用	＊6
	トラクターユニット	PG40801S	PD4080S 用	
		PG4081	PD4081 用	＊7
		PG4130	PD4130 用	＊8
	自動給紙機構	AS40802S	PD4080S 用	
		AS4081	PD4081 用	＊7
		AS4130	PD4130 用	＊8
		AS3160	PD3160 用	
		AS1061	PD2080 用	
		AS3130	PD2130 用	
		AS2161	PA2161 用	
	LAN アダプター	PB20101	PD2080/2130/2161/4080S/4081/4130/3161 PN5200/5400/5600/5600P/PL912 用	
		PB20111	PD2080/2130/2161/4081/4130/3161 PN5200/5400/5600/5600P 用	
		PB20301	PD2080/2130/2161/4080S/4181/4130/3161 PN5200/5400/5600/5600P PL9120 用	＊20
	防振テーブル	AD10100	PD2080/2130/2161/4080S/4081/4130/3161 用	
ページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF2170	PL2170 用	＊9
		PF2450	PL2450 用	＊10
		PF25501	PL2560 用	＊11
		PF25502	PL2560 用	＊11
	ペーパーデッキ	PF4300	PL2700 用	＊12、＊13
		PF27002		＊12、＊13
	1 トレイモジュール	PF28101	PL2810 用	
	3 トレイモジュール	PF28103	PL2810 用	
	大容量キャビネット	PF28105	PL2810 用	
	大容量給紙トレイ	PF48001	PK4800 用	
	オプションコントローラ	PB2700	PL2700 用	＊13
	ステイプルスタッカ	PH27001	PL2700 用	＊12、＊13、＊14
	7 ビンソータ	PH27002	PL2700 用	＊12、＊13

分類	品名	形名	仕様	
ページプリンターオプション	パワースタッカー	PH91201	PL9120 用	
	用紙カッター	PH91202	PL9120 用	
	LAN アダプタ	PB20101	PL9120 用	
	ステープルフィニッシャー	PH28001	PL2800/PL2810PSA 用	
	ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ / ｿｰﾀｰ	PH48001	PK4800 用	
	ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ/ﾌｨﾆｯｼｬｰ	PH48002	PK4800 用	
	ペディスタル	AD2600	PL2700 用	＊ 12
		AD27002	PH27002 用 7 ビンソータ台	＊ 15
	両面印刷機構	PW2450	PL2450 用	
		PW2550	PL2560 用	
		PW4300	PL2700 用	
		PW2800	PL2800 用 /PL2810PSA 用	
	拡張メモリー	PM27001	PL2450/2560/2700 用 32MB	＊ 16
		PM27002	PL2450/2560/2700 用 64MB	＊ 16
		PM2810	PL2810 用 64MB	
		PM48001	PK4800 用	
		PM48002	PK4800 用	
	LAN ボード	PB20002A	PL2450/2560/2700 用	＊ 17
		PB20011A	PL2450/2560/2700 用	＊ 17
		PB2170	PL2170 用	
		PB40002	PK3000/2000、PL9120 用	
	KEIS フォント	PB20701A	PL2700 用	
		PB20702	PL2450、2560 用	
	内蔵ハードディスク	PA2560	PL2450/PL2560 用	＊ 17、＊ 18
		PA2700	PL2700 用	＊ 17、＊ 18
		PA28101	PL2810 用	
	PostScript ソフトウェアキット	PA28102	PL2810 用（2 書体）	
		PA28103	PL2810 用（3 書体）	
		PA48002	PK4800 用	
	プリンタキット	PG48001	PK4800 用	
		PG48002	PK4800 用	
		PG48003	PK4800 用	
	地震対策キット	PG48005	PK4800 用	

分類	品名	形名	仕様
カラーページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF4110	PK3000/3000N/3500N 用
		PF4120	PK2000/2000N/2500N 用
		PF47001	PK4700N 用
		PF47002	PK4700N 用
		PF47003	PK4700N 用
	両面印刷機構	PW4110	PK3000/3000N/3500N 用
		PW4120	PK2000/2000N/2500N 用
		PW4700	PK4700N 用
	拡張メモリー	PM41101	PK3000/3000N/3500N/2000/2000N/2500N 用　64MB
		PM42101	PK3500N/2500N 用　128MB
		PM47001	PK4700N 用 64MB
		PM47002	PK4700N 用 128MB
	LAN アダプタ	PB40002	PK3000/2000/PL9120 用
	増設ハードディスク	PA42101	PK3500N/2500N 用
		PA47001	PK4700N 用
	プリンター台	AD4110	PK3000/3000N/3500N 用
		AD4700	PK4700N 用
	標準用紙カセット	PA41101	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41201	PK2000/2000N/2500N 用
	LFU カセット	PA41103	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41203	PK2000/2000N/2500N 用
	A4 カセット	PA41102	PK3000/3000N/3500N 用

分類	品名	形名	仕様	
LAN 機器	無線 LAN アクセスポイント	CN3300	無線 LAN アクセスポイント	
	TP トランシーバー	LAN-LNTTF		
	リピーター	HN-1312-12		
	マルチリピーター(HUB)	HN-1332-08B		
		HN-1332-16		
		HN-1332-16A		
		HN-1352-08		
		LAN-LNRP8A		
		LAN-LNRP16A		
		LAN-LNFRP8A		
	SNMP 付マルチポートリピーター	LAN-LNRP12		
	HUB 管理ユニット	HN-F1332-1		
	管理機能内蔵 HUB	HN-1342-08		
		HN-1342-16		
		HN-1342-16A		
		HN-1362-08		
	スイッチング HUB	PC-BH7500		
	HS30	HN-1801-08		
	HS30	HN-1801-16		
	HS50	HN-1805-10		
	HS100	HN-1811-10		
	HS100	HN-1811-10A		
	HS100	HN-1811-10F		
	HS150	HN-1815-10		＊19
	HS150	HN-1815-10A		＊19
	HS150	HN-1815-20		＊19
	HS150	HN-1815-20A		＊19
	HS150	HN-1815-31		
	HS150	HN-1815-32		
	HS200	HN-1821-10A		
	HS200	HN-1822-10A		
	HS200	HN-F1821-12		
	HS200	HN-F1821-31A		
	HS200	HN-F1821-32E		
		LAN-LNF2SW6A		＊19
		LAN-LNFR2SWA		
		LAN-LNFR8SWA		＊19

<table>
<tr><th>分類</th><th>品名</th><th>形名</th><th>仕様</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="16">ケーブル</td><td rowspan="4">プリンターケーブル</td><td>LP1101</td><td>PD2080/2130/2161/4080S/4081/4130/3161
PL2170/2450/2560/2700/2810/
PK2000/2000N/2500N/3000/3000N/3500N/4700N 用
PK4800</td><td></td></tr>
<tr><td>LP20301</td><td>PB20301 用</td><td>＊20</td></tr>
<tr><td>HT-4996-66E</td><td>PN5200/5400/5600/5600P 用</td><td></td></tr>
<tr><td>HT-4996-66H</td><td>PL9120 用</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">モデムケーブル</td><td>LM1111</td><td>4.0m</td><td></td></tr>
<tr><td>LM1100</td><td>2.0m</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">RS-232-C 機器接続ケーブル</td><td>LR1111</td><td>4.0m</td><td></td></tr>
<tr><td>LR1100</td><td>2.0m</td><td></td></tr>
<tr><td>SCSI ケーブル</td><td>LE3080</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>マルチリピーター接続ケーブル</td><td>HN-F1332-16</td><td>HUB16 を接続</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">TP ケーブル（3m）
(6m)
(15m)
(30m)
(100m)</td><td>LNW03Q5</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>LNW06Q5</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>LNW15Q5</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>LNW30Q5</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>LNW100Q5</td><td></td><td></td></tr>
</table>

＊4 ：プリンターケーブルや拡張メモリーなどとのセット品もあります。
＊5 ：通常の 2 極電源とは異なるため、別途、電源工事が必要です。
＊6 ：イージーセットフィーダー接続時は、自動給紙機構の前方接続または連続用紙の前方給紙はできません。
＊7 ：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンタの後方に同時接続することはできません。
＊8 ：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンタの前方に同時接続することはできません。
＊9 ：1 段のみ増設可能です。
＊10: 3 段まで増設可能です。
＊11: 2 段まで増設可能です。ただし、５００枚ペーパーフィーダーは最下段のみで使用可能です。
＊12: いずれかひとつの選択となります。
＊13: オプションコントローラは増設給紙排紙機構使用時の必須オプションです。
＊14: 2000 枚ペーパーデッキ、500 枚× 2 段ペーパーデッキ、ペディスタル（プリンタ台）いずれかが必要です。
＊15: 7 ビンソータとペーパーデッキを接続時は 7 ビンソータ台が必要となります。
＊16: 拡張メモリーは 1 つのみ接続可能です。
＊17: LAN ボードと内蔵ハードディスクは、いずれか 1 つの選択となります。
＊18: 拡張メモリーの追加が必要です。
＊19: 100BASE-TX/10BASE-T 共用です。それ以外の LAN 機器は 10BASE-T 専用です。
＊20: ラインプリンター、連続紙ページプリンターに接続するには、プリンターケーブル PC-LP20301 が必要です。

重要事項

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限な内容をまとめてあります。

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

・寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。
・暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
・ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
・極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
・腐食性ガスや塩分を多量に含む空気などは、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食させます。そうなると、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。そのため、パソコンや周辺機器は腐食性ガス（ 特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど) や塩分を多量に含む空気などが発生しない場所に設置してください。
・パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。
このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。

参照
最適な湿度について→『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

・ハードウェアの故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
・Windows の立ち上げ中や使用中に強制終了すると、次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は HDD をフォーマットしないとパソコンが使用できない場合もあります。
・電源を切ってから再び電源を入れるまでに、必ず 20 秒以上お待ちください。連続して電源を入り切りする (瞬時停電も含む) と保護機能が働くことがあります。このときは、一度電源を切って、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。20 秒以上経過してから AC アダプターの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れてください。
・パソコンを立てかけて置くと、倒れた場合に壊れることがあります。絶対に立てかけないでください。
・パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。

・磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
・ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
・マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付きＯＡタップからとることをお勧めします。
・マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
・Windows 98 で MS-DOS プロンプトを使用する場合は英語環境にしないでください。正しく動作しないことがあります。
・電源スイッチを一度 OFF にしたら、再度 ON にするのは必ず 20 秒以上経過してからにしてください。20 秒以上経過しないと、パソコンが立ち上がらないことがあります。
・煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
・じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

通信について

・通信中や、HDD、CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ、フロッピーディスクドライブの読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。

ディスプレイについて

・表示するパターンによっては、微妙な輝点（指定の色と関係なく光る）や黒点（指定の色が表示できない）が見えたり、罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません。
・液晶の特性上、表示するパターンによっては、画面がちらつくことがあります。
・長時間同一パターンを表示していると、画面が変ったときにも前のパターンが薄く見えることがあります。これは時間が経過すると消えます。
・パソコンの使用温度範囲は、5 ℃～ 35 ℃です。5 ℃未満の環境でご使用になると画面が暗くなったり、表示できなくなったりします。5 ℃以上のところで、電源を入れ直してください。
・長時間継続してご使用になると、液晶の温度上昇によりコントラストに少し変ったムラが出ることがあります。これは温度が下がると元に戻ります。
・ディスプレイ表面に水滴や指紋が付いたときは、すぐに拭き取ってください。
・多色表示を実現させるため、また液晶の構造上、上方向から見えにくくなっています。ディスプレイ部を見やすい角度にしてご使用ください。
・パソコンのディスプレイの最大領域を越えて、外付けのディスプレイに同時表示すると、パソコンのディスプレイには表示されません。
・節電機能に移行するとき、表示が一瞬、乱れることがあります。

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると､「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次の通りです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。なお、＊は『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」の「 HDD 」の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

バッテリーの使用について

・お買い求め直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。完全放電と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・バッテリーパックは湿気の少ない涼しい場所で保管してください。
・バッテリーパックには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。
・バッテリーパックの金属部分には素手で触れないでください。
・バッテリーパックは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。
　・電池の＋－端子間をショートさせない。
　・火中に投入したり、60 ℃以上に加熱しない。
　・落下などの強い衝撃を与えない。
　・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
　・濡れた布で金属部分を拭かない。
　・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
　・分解しない。
　・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
　・指定外のバッテリーパックを使用しない。
　・液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は、流水で洗い流す。
・使用済みのバッテリーパックは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。
・定期的に完全放電を行わないと、バッテリーでの動作時間が短くなり、バッテリ低下アラームが早く動作することがあります。

さくいん

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

・Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
・Intel は Intel Corporation の登録商標です。
・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

ハードウェアを使いこなす

初 版　2002 年 5 月

株式会社　日立製作所

インターネットプラットフォーム事業部

〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地

NS0303000-1

HITACHI FLORA 220W NS3

ハードウェアを使いこなす

HITACHI

NS0303000-1